

WILDLIFE VIEW vol.4

ワイルドライフビュー 4号



CONTENTS

- エッセイ 朝霧に包まれて (ウォーターバック)
- 特集1 灼熱の大地に、陽気な妖精たちが踊る (ケープアラゲジリス)
- 特集2 ハクトウワシよ、大空へはばたけ！ (ハクトウワシ)
- TOPIX ユキウサギ/ホッキョクギツネ/ジャコウウシ
- 特集3 北極圏の神秘のシカ カリブー (トナカイ)
- 特集4 地球が産んだ宝石のような妖麗 (ヒョウ)
- 特集5 優しくも哀しいマナティー (フロリダマナティー)
- 特集6 タヌキの育児記録 (タヌキ)



特集1 灼熱の大地に、陽気な妖精たちが踊る

乾季には気温が50度を超す灼熱と砂嵐が吹き荒れ、雨季の夜明け前は氷点下の凍てつく世界。荒涼とした南部アフリカのブッシュランドの大自然は、いつも過酷で厳しく、そこに生きる者たちに容赦のない現実を叩きつけ続ける。しかし、そんな厳しい自然の中でさえも、実に生き活きと元気にはしゃぎ回るケープアラゲジリスたち。30cmにも満たないこの小型草食獣は、飽食状態の文明社会の中で澁んだ怠惰に身を沈めている私たちに、どんな環境でも陽気に楽しく逞しく生きていくことの素晴らしさを、改めて教えてくれている気がする。

Photo : ©Stefano Unterthiner



特集4 地球が産んだ宝石のような妖麗

黄褐色の毛に鮮やかに浮き出る美しい模様。総てを見通すように澄み切った瞳。そして、音もなく忍び寄るしなやかな体。神が彼らに与えたこの華麗な容姿は、太古より世界中の人々を魅了し、崇拜と畏敬の念を抱かせ続けた。そして、ある国では神の称号を与えられ、またある国では王家のシンボルとして称えられることとなった。しかし近年、人類が銃という武器を手に入れた瞬間から、ヒョウへの羨望の眼差しはその毛皮のみに注がれていくこととなる。そして、ヒョウの絶滅へのカウントダウンが始まった…。

Photo : ©Anup and Monoj Shah



特集5 優しくも哀しいマナティー

体長3m以上になる巨大な水棲哺乳類マナティー。彼らはその巨体にもかかわらず、攻撃的な面はいっさいなく、ひたすら優雅で平穏な水中生活を続けてきた、まさに愛すべき「優しい巨人」だ。しかし、太古から水中に刻んできた彼らのこの穏やかな生活が、今、人間によって無残にも引き裂かれ続けている。誰にも迷惑をかけず、平和を愛し、マイペースを貫き続ける、敬愛すべき彼らに迫る悲劇とは…。

Photo : ©Phillip Colla